

## 心にとどめてきたこと

### 〈授業の場で〉

- 「子供の顔の表情、頭の動きに目を向けなさい。教師の声がちゃんと届いているかが分かります。」
- 「『教室の空気』ちゃダラにできんがいぞ。いい空気を子供に吸わせてやらんなんよ。」
- 「教師は、子供に元気を出してもらうのが仕事だ。」  
「子供たちが何をしているかでなく、何を学んでいるかを見ろ。」

### 〈研修の場で〉

- 「必ずメモをとってください。」
  - ・話を聞いているときは「なるほど」と思っていながら聞いている。しばらくすると、感心したことは思い出すが、何に感心したかは思い出せない。メモは大事な資料となる。
- 「それ、どこに書いてあったけ?」「出典を明確にしておく。」
  - ・このことは、情報の信憑性を裏付ける大事な要件となる。
- 「いくら集めても、自分で作った資料しか使えないよ。」
  - ・教師は様々な資料を手にする機会に恵まれる。人がまとめてくれた資料は、あくまでその人のものである。自分好みの資料に作り変えることで初めて使える資料となる。
- 「資料は、見たいときにすぐ使えるようにしておく、資料は綴じたらまず見ないね。」
  - ・ファイルに綴じる前に蛍光ペンをさっと入れるだけでも違う。そうしておけば、見返すときに、参考にしたところを見つけやすい。捨てることも大切だ。
- 「分かるように話さんにゃ、誰が聞いてくれっことい。」
  - ・自分が言いたいことが、本当に相手にとって聞きたいことなのか考えて話す。
  - ・相手に応じて、内容に応じて、時間に応じて相手に伝わるように話す工夫に努める。
  - ・端的に、具体を織り交ぜて話す。